

サービ斯拉ーニングを通して

活動先：NPO 法人 生活支援センター わたぼうし
クラス：末盛 慶 先生

1. 自分の成長と気づき

1年間のサービ斯拉ーニングを通し、前期の授業では事前学習、夏休みには実際の活動、後期には事後学習を行ってきた。前期の事前学習では、活動するにあたっての目標指定、どのような活動をするのか、その活動を実行するために必要な事前準備などを行い、実際の活動に向けて計画した。計画をしていく上で、どのようなイベントをすれば子どもたちが喜んでくれるのか、そのイベントを成功させるために必要な準備は何かなどを4人で話し合い、協力する大切さを学んだ。

活動中では、私たちが計画する活動として空の科学館へのお出かけがあった。事前の活動先から科学館へのルート確認、昼食をとる場所の確認、タイムスケジュールの作成などの準備を行い、当日を迎えたが、そこでは活動先の方々に頼り切りの部分が多々あった。その原因として、私は自分たちで計画することに重点を置きすぎ、活動先の方との事前の話し合いが十分ではなかったと考える。

私は、普段から初対面の人に自分から話しかけるのが苦手であるが、活動中はそんなことでは学べることも学べないと思い、自分から質問などしようと思っていたのだが、やはりあまり質問できなかった。

それは、活動中にあまり疑問に思ったことがなかったという理由も挙げられる。活動中に何を目標として活動するのか、何を学びたいのかを決めることで、充実した活動内容に近づくが、その目標達成のためにどのような行動をし、過程を踏むかを自分の中できちんと決めておかなければ、本当に充実した活動内容にはならないと思った。私はこのように目標を達成するまでの過程に何をすればよいか分分からず、活動中に受身の姿勢でいたことが、活動中にあまり疑問を持たないという結果に繋がったと考える。

受け身の姿勢でいる事は、活動先の方にとってもとても失礼なことだと思うのでこれから気をつけたいと思う。わたぼうしでの活動を通して学んだこれらのことは、3年時の実習で生かすことができるようにしたい。

また、事後学習の大切さも知ることができた。活動内容を計画し実際に行うだけでなく、活動から学んだことの振り返りや、ジレンマケースについてみんなで話し合うことで、ただ学んだことを述べて終わるよりももう1つ学びを深める事が出来るということが分かった。サービ斯拉ーニングゼミでは、クラスの子たちとこのように自分の意見を言い合う機会がたくさんあり、自然と自分の意見をまとめ、みんなに伝える力がついたと思う。この力を、これからも大切にしていきたい。

サービ斯拉ーニングを通して、活動中は受け身にならない事、事後学習の大切さを学んだ。これらのことは、これからにつなげていこうと思う。

2. この活動を通して見えてきた地域活動や社会問題

私が活動させていただいたわたぼうしでは、夏休みの毎年の行事としておでかけ、わたっこまつり、こどもキャンプがある。そのなかで私はおでかけとわたっこまつりに参加させていただいた。この2つの行事から見えてきた社会問題についてこれから述べようと思う。

まず1つ目に、おでかけでは、半田市にあるわたぼうしから歩いて1時間半程のところにある半田市空の科学館まで、活動先の方4名学生2名計6名で40名程の子どもたちの安全を守りながら歩いた。その中で私が気になったことは、歩道がない道路が多いということである。

歩道がある道路では、子どもたちもきちんと並びながら歩くことができるが、歩道がない道路ではどうしても横に広がりながら歩いてしまい、とても危険である。活動先の方は遠足に慣れており、しっかりと子どもたちの安全を確保されていたが、やはり大人数で市街を歩くには、道の安全面があまり十分ではないと感じた。

また私たちは、空の科学館へのお出かけを通し、地域の人たちにわたぼうしの存在を知ってもらおうと考えており、その目標は達成できたと思う。しかし、空の科学館で遊んでいる途中、わたぼうしの子どもたちがはしゃぎすぎ、一般の方が不快に思うということがあった。それではせっかく知ってもらえても悪いイメージを抱いてしまうだけなので、地域に出る事はメリットばかりではなく、デメリットにも目を向けなければならないと思った。

2つ目にわたっこまつりから見えてきた問題について述べようと思う。

わたっこまつりは、年に1度ある子どもたち主体のお祭りである。お祭りには、子どもたちの母親や地域の方々が来てくださり、活気ある行事だった。特に家族の方には、普段自分の子供が学童保育で友達と楽しく過ごしているかなどを知ることができるいい機会だと感じた。子どもたちとも、1番たくさん話すことができたと思う。そこで私はある男の子と話している途中、「お祭りが終わったら歩いて1時間かかる自宅まで帰る」という言葉に驚いたことが1番印象に残っている。半田市には、私たちが活動させていただいたわたぼうししか学童保育所が無く、自宅から1時間ということも不思議ではない。

学童保育所は、基本的に両親共働きの家庭がほとんどであり、時々迎えに行けない日があることも仕方ない事だと思う。だからこそ、家から近いところに学童保育があるべきなのではないだろうか。それだけで親御さんの負担も減るように思う。

しかし、何個も学童保育所を設けるには財政面の問題がある。今は、ボランティアとして子どもたちの面倒を見ている人たちもいると聞いたことがあるので、学校でこのようなボランティアを行っていただける主婦の方などを募集するお知らせを配るなどしたら人件費の問題は少なくなると思う。

市に大きい学童保育所が1つ有るより、小さい学童保育所が幾つかある方が私はいいと思うので、難しい問題だと思うが検討してほしい。